

(評価資料4)

<p>研究課題</p>	<p>4 ヘア・トラップ法によるツキノワグマの生息動向と個体数推定法の開発(24-28)</p>
<p>研究目的・背景</p>	<p>ヘア・トラップ調査のモデル地域を設定し、個体群のトレンドを把握する。そして継続したヘア・トラップ調査の結果を組み入れる統計シミュレーションモデルを試行し、岩手版の生息動向と個体数推定法を確立する。</p>
<p>研究結果</p>	<p>○ 遺伝子解析に用いたセッションごとのサンプル数と各セッションの確認頭数をみると、遺伝子解析成功率はどのセッションにおいても高い値を維持しており、平成28年度における最終的な演習林での確認頭数は31頭であった。演習林では過去10年間のヘア・トラップ調査が実施されているが、その結果と比較すると高い値になった。</p> <p>○ 空間明示型標識再捕獲モデルによって個体数密度を推定した結果、平成28年度は0.55頭/㎢であった。平成25年度が0.29頭/㎢平成26年度が0.33頭/㎢平成27年度が0.35頭/㎢であり、密度が上昇してきている。平成27年はブナが大豊作であったため、出生率が上昇して子グマが増加した可能性も考えられる。</p>
<p>評価結果</p>	<p>○ 総合評価 A(6人)・B(0人)・C(0人)・D(0人)・E(0人)</p> <p>○ 総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クマの個体数動向のモデルなど、今後の捕獲数を検討する上で重要な成果が出ており、評価できる。 ・ ツキノワグマの生息状況と今後の動態が予測可能な手法が開発され、実際に応用されており大きな成果である。 ・ 全体として十分な成果を挙げていると認められ、さらなる研究の発展が望まれる。 ・ 本県の重要な政策課題を解決するための重要な研究である。引き続き精度を上げる研究を続けていただきたい。 ・ 積極的な成果の発信が必要であるが、概ね本研究の成果は達成され、総合評価はA評価と考える。 ・ 分子生物学的手法も応用し、個体識別可能な手法を開発したことは大いに評価される。
<p>センターの対応方針</p>	<p>① 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>Ⅱ 研究成果は目標をほぼ達成した</p> <p>Ⅲ 研究成果は目標をかなり下回った</p> <p>Ⅳ 研究成果は目標を大幅に下回った</p> <p>Ⅴ 研究成果がなかった</p> <p>岩手県全域のツキノワグマの個体数を推計するとともに、個体群動態モデルの構築により自然増加率の推定を可能とした。</p> <p>今後、個体数推定法及び個体群動態モデルの精度向上を図るとともに、新たな調査手法の導入などにより、ツキノワグマ管理計画の策定等に貢献していきたい。</p>